

日本地球電気磁気学会会報（第88号）

1980年11月

日本地球電気磁気学会

東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

(財)日本学会事務センター内

電 話 03-815-1903

I 第68回総会ならびに講演会

第68回総会ならびに講演会は11月5日～7日の3日間、名古屋大学理学部のお世話により、名古屋サンプラザにおいて開かれました。6日午後には、秋葉鎌二郎氏（東大宇航研）による「宇宙工学の将来と夢」、長島一男氏（名古屋大理）による「太陽系磁気圏と宇宙線」についての特別講演の後、河島運営委員を議長として、下記のような次第で総会が開かれました。

- (1) 開会の辞 （上野会員）
- (2) 議長選出 （河島運営委員）
- (3) 大会委員長挨拶 （長島会員）
- (4) 運営委員会報告 （松本運営委員）
- (5) 学会委員長挨拶
- (6) 議 事

(イ) 次期開催地（電波研）の確認

議長より今年春の総会で提案された通り電波研究所での開催を確認したいとの発言があり、多数の参加をお待ちするとの返事が羽倉会員よりあった。

(ロ) 次々期（56年秋）開催地の提案

平沢会員より第70回総会および講演会の開催地として神戸大学にお願いしたいとの発言に対して、松本会員よりお受けする方向で検討したいとの返答があった。

(7) 謝 辞

参加者を代表して、大林会員から、今回の総会と講演会をお世話下さった名古屋大学理学部の方々に謝辞が述べられた。

(8) 閉会の辞（議長）

Ⅱ 第10期学会を終えるにあたって

委員長 加藤 進

此の度、第68回の学会が名古屋大学の御世話で開催されました。サンプラザというホテルの立派な会場で3日間に亘って開かれた講演会では、240という多数の研究発表がありました。本学会の発展の一端を物語っていると存じます。今回も開かれたポスターセッションでは、カラーテレビも使用されておりました。

この様に発展してゆく本学会を動かしてゆく学会役員の改選が近く行われる予定です。会員の総意を反映する役員を選ぶには、先ず会員が投票を忘れないことが大切です。よろしくお願いします。

さて、学会に関連したニュースとしてはいろいろあります。国際協同観測事業としては、IMSが昨年終了した所です。併し、その計画の一環として、打上げられた日本の科学衛星EXOS-Bは現在でも、活動中で、磁気圏の観測を続けています。EXOS-Bによる米国との共同観測も行われています。1982-1985年に実施されるMAP計画の準備のための国際運営委員会(第3回)が去る8月に米国で開かれました。日本のMAP衛星であるEXOS-Cの打上げや、日本が中心となる南極中層大気観測計画、日本の大型レーダー建設計画などのMAPに占める重要性が論議の中で明らかになっています。また、米国の地磁気観測衛星MAGSATデータの国際的利用に日本が国として、正式に参加しました。すでに成果が挙り始めているのは、今回の学会講演会でも示されています。この他、固体地球の方面でも、海底掘さくや、海底での観測などで大型の国際協力計画が進められている様です。1980年代は日本が、今までにない大型の国際協力を行なう時代になると思います。得るものも大型になる反面、負担や責任も大型になることを自覚しておく必要があります。

勿論、この様なプロジェクトを支えるものは、基礎的研究の発展です。会員の皆様が、新しい方向に、また、より深い方向に、創造的研究を進めて行かれんことを心から願っています。

研究推進の場として、来年4月、念願の宇宙科学の中核研究所が発足しようとしています。大変喜ばしいことです。現東大宇宙航空研究所を発展させた国立大学共同利用機関という形の研究所で、東大からは独立した機関です。宇宙科学の大型化、国際化に対応するためには、この様な中心となる組織が必要であると思います。40部門以上の大きな研究所とは言え、専任の研究者は、やはり、限られた数であり、やがて老化も起ります。この研究所を有効に生かして、宇宙科学という、本学会に大変関連深い学問と技術の開発を推進するためには、研究所外の関連研究者が協力することが不可欠です。この研究所を私達は大いに利用すると共に、この研究所を盛り立てて行きたいと存じます。

終りに、学会委員長として第10期最後の学会に臨んで、過去2ヶ年の会員の御協力を心から感

謝するものです。本学会は、すでに30有余年の歴史を持っています。規模は決して大きい学会ではありませんが、優れた先輩達の築いたものは輝しいと思います。私はこの学会の委員長として、この2年間を送ったことを大変名誉だと感じている次第です。いろいろ有難う存じました。

Ⅲ 「海洋大陸遷移地域における地球電磁気現象研究会」および「CA研究会」の合同研究会のお知らせ

開催期日：昭和56年1月29日～31日

場 所：東京大学海洋研究所

〒164 東京都中野区南台1丁目15-1

内 容：○海洋大陸遷移地域の電磁気現象

○火山・地震に関連した電磁気現象や地球内部の電磁氣的構造など

講演申込締切：昭和55年12月10日(水)

申 込 先：〒113 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所 行 武 毅

(03) 812-211 内5735

Ⅳ IAGA News 配布希望者へのお願い

International Association of Geomagnetism and Aeronomy事務局では毎年1回 IAGA News を発行し、過去のIAGA会議出席者および配布希望申込者に無料配布しています。1980年12月にはIAGA News No.19が発行され、この号には1981年8月3日-15日に米国Edinburghで開催される第4回IAGA学術総会に関する案内(論文発表申込締切は1981年3月31日)や最近のIAGA関係諸情報が集録されます。

今後あらたにIAGA News の配布を受けたい方々は、氏名・宛先(邦文および英文にて)を下記あて書き送り下さい。

東京大学理学部地球物理研究施設 福 島 直

〒113 東京都文京区本郷7-3-1